

題名 VMware Updater使用時のMSSによるバックアップエラーの回避方法

1. 概要

VMware Updater使用後にVMwareをバックアップする場合にバックアップ処理がエラーメッセージを出力し、終了する不具合が見つかっている。この不具合は、障害診断用パーティション領域に関する、MSS V3内蔵のファイルシステムの判定ロジックの誤動作によるものである。

2. 詳細

MSS V3R1のバックアップ操作画面において表示するエラーメッセージは以下のとおりである。

```
source seek ERROR: Invalid argument
```

VMware Updaterを使用し、VMwareをアップデートする際に、障害診断用パーティション領域に、アップデート前のコアダンプが残る場合がある¹。その場合に、MSSのバックアップ操作において、当該コアダンプをバックアップ対象のファイルシステムとして、誤検出するためである。

3. 解決策

VMware Updaterでの対処方法として、(A)(B)の手順がある。アップデート後にMSSの使用を計画する場合は、本リスクを回避するための手順(A)を推奨する。

(A) 上位バージョンによるクリーンインストールを選択する。

(B) 上位バージョンによる上書きアップデートを選択した場合に、障害診断用パーティション領域の当該コアダンプを消去した後に、バックアップする

手順(B)の復旧策の一つとして、MSSのコンソール画面でのコマンド操作による手順がある。その手順を、5. コアダンプの消去手順において説明する。

4. 追加情報

・MSS V3R1におけるファイルシステムの判定ロジックについて見直した。見直した結果をもとに、MSS V3のマイナーリリースにおいて修正版を提供する予定である。

・MSS V2R5では、当該不具合は発生しない。

¹ vSphereのホストで、ESXi 5.0、5.1 および 5.5 を実行している vSphere ホストから、ESXi バージョン 6.0 へのインプレース アップグレード（上位バージョンによる上書きアップグレード）を選択することで発生する恐れがある。

5. コアダンプの消去手順

MSSのコンソール画面においてコマンド操作で、コアダンプを消去します²。指定するデバイス名を誤った場合は他のパーティションのバックアップ対象のデータを消去します。消去したデータは回復できません。以下の手順を実行する前に、実行内容についてご確認下さい。

- (1) MIRACLE System Saviorを起動します[1]。
- (2) 言語/キーボード設定を行います。
- (3) 「MIRACLE System Savior イメージディレクトリのマウント」の画面が表示されたら Alt + F2 キーを押す。コンソール画面に切り替わります。
- (4) コンソール画面において次のコマンドを実行して、バックアップ対象の候補となるパーティションを探します。

```
[livecd@savior ~]$ sudo su -  
[root@savior ~]# grep sd[s-z]*9 /proc/partitions  
8      9      26241440 sda9
```

- (5) 該当するパーティションが 障害診断用のパーティション(VMKcore パーティション)である事を確認します(以下の例では、デバイス/dev/sda9が該当します)。

```
[root@savior ~]# sgdisk -i 9 /dev/sda | grep "GUID code"  
Partition GUID code: 9D275380-40AD-11DB-BF97-000C2911D1B8 (Unknown)
```

※ GUID の値が 9D275380-40AD-11DB-BF97-000C2911D1B8である事を確認します
[2]

- (6) dd コマンドで VMKcore パーティションの先頭セクタをクリアします。これにより、当該パーティション領域内のコアダンプが全て消去されます。

```
[root@savior ~]# dd if=/dev/zero of=/dev/sda9 bs=512 count=1
```

- (7) 次のコマンドを実行し、MSS の画面に戻ってバックアップを実行します。

```
[root@savior ~]# chvt 1
```

6. 参考情報

[1] MIRACLE LINUX編, [MIRACLE System Saviorユーザーズガイド](#)

[2] VMware, [ESX および ESXi で partedUtil コマンドライン ユーティリティを使用する \(2080042\)](#)

² 実行前にデバイス名(この例では/dev/sda9であり、お客様の環境に応じて異なります)についてご確認ください。

[注意事項]

本ドキュメントは、各ソフトウェア開発元の情報およびマニュアル等を元にした参考情報です。本ドキュメントの内容は、予告なしに変更される場合があります。

本ドキュメントは、限られた評価環境における検証結果をもとに作成しており、全ての環境での動作を保証するものではありません。

本ドキュメントの内容に基づき、導入、設定、運用を行なったことにより損害が生じた場合でも、弊社はその損害についての責任を負いません。あくまでお客様のご判断にてご使用ください。